

取扱説明書



準備する	2
機器を接続する	2
電源を入れる	3
一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする (AUTO OFF)	3
接続したアンプの種類を設定する	3
音量を調節する	4
チューナーを使う	4
チューナーの各種設定	4
演奏する	5
パッチを選ぶ	5
プレイ画面について	5
コントロール・モードを選ぶ	6
ベース・ギターで GT-1000CORE を使う	6
エディット編：エフェクト	7
エフェクト・エディットの基本操作	7
エフェクトの配置	7
STOMPBOX を使う	8
STOMPBOX を編集する	8
STOMPBOX の設定をパッチに読み出す	8
パッチの設定を STOMPBOX に書き込む	9
パッチの保存	9
エディット編：MENU	10
MENU の基本操作	10
[1] ～ [5] つまみに好みのパラメーターを割り当てる	10
ディスプレイのコントラスト（明るさ）を調節する	10
工場出荷時の設定に戻す（ファクトリー・リセット）	11
メトロノームを使う	11

パソコンに接続する	12
USB ドライバーのインストール	12
オーディオ・インターフェースとして使う	12
外部 MIDI 機器を接続する	13
GT-1000CORE からの操作	13
外部 MIDI 機器からの操作	13
フットスイッチ、エクスプレッション・ペダルの設定	14
機能を設定する	14
エフェクト・エディット画面からアサインを設定する (クイック・アサイン)	14
外部ペダルの接続について	15
ルーパー	16
ルーパー機能をスイッチにアサインする	16
ループ再生レベルの設定	16
スイッチの色	16
主な仕様	17
安全上のご注意	17
使用上のご注意	18

本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に『安全上のご注意』と『使用上のご注意』（『安全上のご注意』チラシと取扱説明書（P.17、18））をよくお読みください。お読みになったあとは、すぐに見られるところに保管しておいてください。

© 2020 Roland Corporation



取扱説明書（本書）

最初に読んでください。使いかたの基本操作を説明しています。



PDF マニュアル（Web からダウンロード）

- **パラメーター・ガイド**
本機のすべてのパラメーターについて解説しています。
- **サウンド・リスト**
本機に収録されている音色のリストです。
- **MIDI インプリメンテーション**
MIDIメッセージの詳細資料です。



PDF マニュアルの入手方法

1. パソコンなどで下記の URL を入力します。
<http://jp.boss.info/manuals/>
▼
2. 製品名「GT-1000CORE」を選んでください。

準備する

機器を接続する

SEND (1、2) / RETURN (1、2) 端子

外部エフェクターを接続します。

SEND (1、2) / RETURN (1、2) 端子を SEND (L、R) / RETURN (L、R) 端子として、ステレオ対応のエフェクターを接続することもできます。また SEND (1、2) 端子を SUB OUT 端子として、RETURN 端子を AUX IN 端子として使うことができます。詳しくは『GT-1000CORE パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

OUTPUT 端子

ギター・アンプ、ミキサー、またはヘッドホン (別売) に接続します。
※ モノで出力するときは、R/MONO 端子だけに接続してください。
※ ヘッドホンは L/PHONES 端子に接続してください。ヘッドホン使用時は R/MONO には何も接続しないでください。
※ ヘッドホンからは OUTPUT の信号のみが出力されます。SUB OUT の信号は出力されません。詳しくは『GT-1000CORE パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

3 ギターなどを接続する

接地端子

※ 外部アースまたは大地に接地します。必要に応じて接続してください。

INPUT R/MONO、L 端子

ギターや他のエフェクターの出力を接続します。モノで入力するときは、R / MONO 端子のみをご使用ください。

1 接続する機器の音量を絞る

2 OUTPUT 端子に機器を接続する

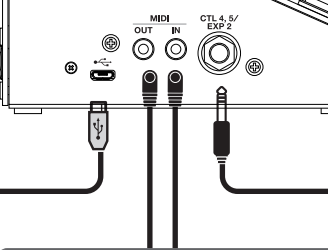
4 電源を入れる

DC IN 端子

AC アダプターを接続します。

※ DC IN 端子は、電源スイッチも兼ねています。DC IN 端子にプラグを差し込むと電源がオンになります。プラグを抜くとオフになります。

サイド・パネル (左)



MIDI IN / OUT 端子

外部 MIDI 機器を接続します。(P.13)
※ 接続には TRS/MIDI ケーブル (BMIDI-5-35 : 別売) をご使用ください。
※ オーディオ機器を接続しないでください。故障の原因になります。

USB COMPUTER 端子

USB ケーブルでパソコンに接続して、GT-1000CORE とパソコンとの間でオーディオ / MIDI を送信 / 受信します (P.12)。

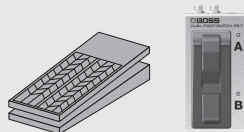
CTL2, 3/EXP 1 端子、CTL4, 5/EXP 2 端子

エクスプレッション・ペダル (別売: EV-30、Roland EV-5 など) やフットスイッチ (別売: FS-5U、FS-6、FS-7) を接続すると、さまざまなパラメーターをコントロールすることができます。

→ 設定方法は、『フットスイッチ、エクスプレッション・ペダルの設定』(P.14) をご覧ください。

※ CTL4, 5/EXP 2 端子はギター・アンプのチャンネル切り替えなどに使用することができます。詳しくは『GT-1000CORE パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

※ エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のものをお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。



※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。

※ 電源を入れる / 切るときは、音量を絞ってください。音量を絞っても電源を入れる / 切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。

注意

ディスプレイに **[SAVING...]** と表示されているときはデータを保存中です。このときは電源を切らないでください。

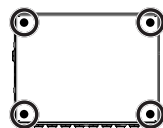
ゴム足の取り付け

ゴム足 (付属) は、必要に応じて取り付けてください。

ゴム足は図の位置に貼り付けます。

※ ゴム足を取り付けないまま本機を使用すると、床を傷つける恐れがあります。

※ 本機を裏返すときは、破損を防ぐためボタンやつまみなどを保護してください。また、落下や転倒を引き起こさないよう取り扱いに注意してください。



本書では、MENU 操作の手順を以下のように表記します。
<例>
[MENU] ボタンを押します。
[3] つまみを押して「IN/OUT SETTING」を選びます。
[1] つまみを押して「INPUT」を選びます。



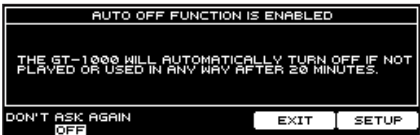
[MENU] → [IN/OUT SETTING] → [INPUT] を選びます。

電源を入れる

①～⑤の手順に従って電源を入れます。
切るときは、逆の手順で電源を切ります。

メモ

電源を入れると、以下の画面が表示されます。



AUTO OFF 機能を [OFF] にしていると、この画面は表示されません。
AUTO OFF 機能の設定をする場合は、[5] つまみで [SETUP] を選びます。詳しくは「一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする (AUTO OFF) (P.3)」をご覧ください。

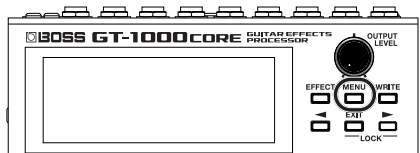
一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする (AUTO OFF)

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間（初期値：20 分）が経過すると、省エネルギーのため自動的に電源が切れます。

注意

- 自動的に電源が切れると、保存していないデータは失われます。残しておきたいデータはあらかじめ保存しておいてください。
- 自動的に電源が切れないようにするには、設定をオフにしてください。ただし設定をオフにすると、消費電力量の増加につながります。
- 自動的に切れた電源を再び入れるときは、本機の電源を入れ直してください。

1. [MENU] → [HARDWARE SETTING] → [AUTO OFF] を選びます。



メニュー画面が表示されます。



[AUTO OFF] は HARDWARE SETTING 画面の 2 ページ目にあります。PAGE[◀▶]ボタンで 2 ページ目を表示させます。



2. [1] ～ [5] つまみで、AUTO OFF 機能を設定します。



設定値	説明
20MIN (初期値)	一定時間（20 分、1 時間、5 時間、10 時間）演奏や操作をしないと、自動的に電源が切れます。
1HOUR	
5HOURS	
10HOURS	
OFF	電源は自動的に切れません。

[20MIN] 以外を選ぶと、確認画面が表示されます。



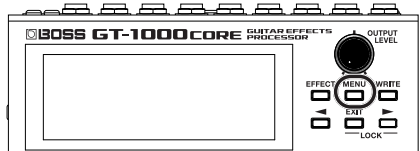
3. [5] つまみを押して、[OK] を選びます。

メモ

AUTO OFF 機能を [20MIN] [1HOUR] [5HOURS] [10HOURS] のいずれかに設定していると、電源が切れる 5 分前から、電源が切れるまでの時間が分単位で表示されます。残り1分を切ると、カウントダウンが始まります。操作や演奏をすると元の画面に戻ります。

接続したアンプの種類を設定する

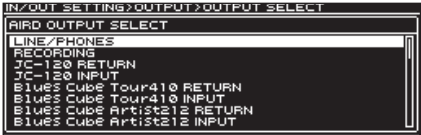
1. [MENU] → [IN/OUT SETTING] → [OUTPUT] → [OUTPUT SELECT] を選びます。



メニュー画面が表示されます。



2. [SELECT] つまみを回して、アンプの種類を選びます。



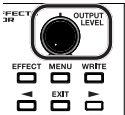
アンプの種類について、詳しくは『GT-1000CORE パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

メモ

GT-1000CORE の AIRD PREAMP を使用する場合は、その特長を最大限に活かすため、ギター・アンプのプリアンプの影響を受けるギター入力端子より、RETURN 端子など、プリアンプに影響されない入力に接続することをおすすめします。

音量を調節する

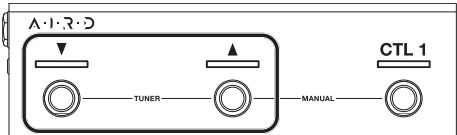
[OUTPUT LEVEL] つまみで、全体の音量を調節します。



チューナーを使う

GT-1000CORE には、弦を 1 本ずつチューニングする従来のモノフォニック・チューナーと、開放弦を一度に全部鳴らしてチューニングするポリフォニック・チューナーが搭載されています。

1. [▼] スイッチと [▲] スイッチを同時に押します。



チューナー画面が表示されます。
PAGE [◀ ▶] ボタンで、チューナーの表示を切り替えることができます。

モノフォニック／ポリフォニック表示



モノフォニック表示



ポリフォニック表示



トールー・テンペラメント表示



※ このモードはトールー・テンペラメントに対応したギター用のチューニングモードです。

以下の手順でもチューナーを起動することができます。

1. [MENU] → [TUNER] を選びます。



[TUNER] はメニューの 1 ページ目にあります。PAGE [◀ ▶] ボタンで 1 ページ目を表示させます。

チューナーの各種設定

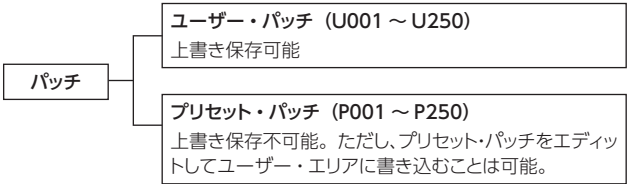
ディスプレイ下の [1] ～ [5] つまみでチューナーの設定をします。

チューナーの設定

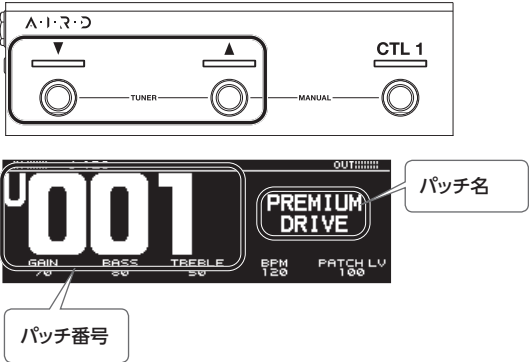
パラメーター	設定値	説明
[1] MODE (TUNER MODE)	NORMAL、STREAM	モノフォニック・チューナーのメーターの表示方法を設定します。
[2] PITCH	435 ～ 445 Hz (初期値：440 Hz)	基準ピッチを設定します。
[3] OUTPUT	MUTE	チューニング中に音を出しません。
	BYPASS	チューニング中に GT-1000CORE に入力されたギターの音をそのまま出力します。すべてのエフェクトがオフの状態です。
	THRU	現在のエフェクト音のままチューニングできます。 ※ モノフォニック・チューナーのみ。
[4] TYPE	6-REG (6-REGULAR)、6-DROP D、7-REG (7-REGULAR)、7-DROP A、4-B REG (4-B REGULAR)、5-B REG (5-B REGULAR)	ポリフォニック・チューナーのチューニングの種類を選びます。
[5] OFFSET	-5 ～ -1、----	ポリフォニック・チューナーの基準音をスタンダード・チューニングから半音単位で変更します。

パッチを選ぶ

エフェクトの組み合わせと設定をひとまとめにしたものを「パッチ」と呼びます。



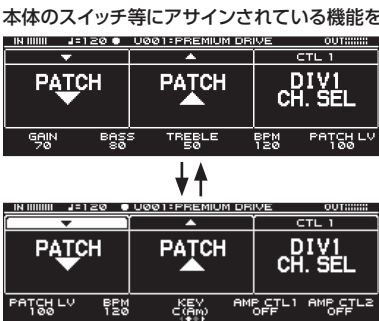
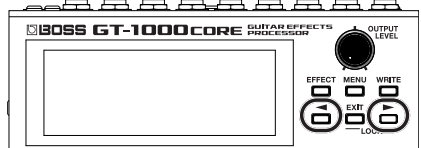
1. [▼] スイッチ、または [▲] スイッチで、パッチを選びます。



メモ
[SELECT] つまみを回してもパッチを切り替えることができます。

プレイ画面について

電源投入時に表示される画面を「プレイ画面」と呼びます。
プレイ画面には次の 4 種類があり、PAGE [◀] [▶] ボタンで表示を切り替えることができます。



メモ
左の画面が表示されているときに PAGE [◀] [▶] ボタンを同時に押すと、本体のスイッチにはアサインされている機能をエディットすることができます。
[SELECT] つまみでエディットするスイッチを選び、[SELECT] つまみを押して機能を選んでください。
元の表示に戻る場合は、もう一度 PAGE [◀] [▶] ボタンを同時に押します。



プレイ画面のアイコン表示



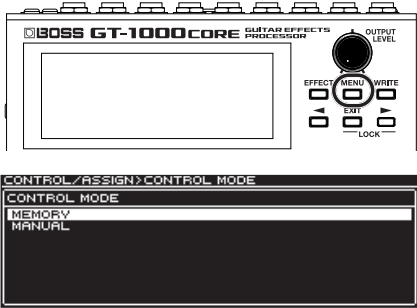
表示	説明
IN	入力レベルを表示します。
OUT	出力レベルを表示します。
RTH	RETURN レベルを表示します。
SND	SEND レベルを表示します。
CMP	コンプレッサー動作時の圧縮レベル量を表示します。
BPM	BPM を表示します。
BPM	BPM に合わせて点滅します。
PAGE	PAGE [◀] [▶] ボタンでどのページに移動したか表示します (エディット画面)。

メモ
プレイ画面が表示されているときに、[1] ~ [5] つまみで、調節できるパラメーターを変更することができます。詳しくは「[1] ~ [5] つまみに好みのパラメーターを割り当てる」(P.10) をご覧ください。

コントロール・モードを選ぶ

コントロール・モードの設定で、使いかたに合わせたにエフェクトの操作方法を選ぶことができます。

1. [MENU] → 「CONTROL MODE」を選びます。



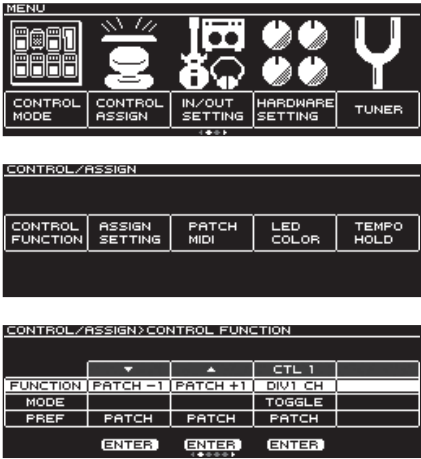
2. [SELECT] つまみを回して、コントロール・モードを選びます。

パラメーター	説明
MEMORY (メモリー・モード)	本体に保存したパッチを呼び出して使うことができるモードです。 【▼】スイッチと【▲】スイッチを使って、パッチを切り替えます。 ※【▼】スイッチと【▲】スイッチを同時に押すとチューナーが起動します。 ※【▲】スイッチと【CTL 1】スイッチを同時に押すとマニュアル・モードに切り替わります。 ※メモリー・モードでも、パッチ呼び出し以外の機能を選ぶことができます。
MANUAL (マニュアル・モード)	パッチ／システムごとに設定した、【▼】スイッチと【▲】スイッチに割り当てた機能を操作するモードです。 マニュアル・モードにすると、PLAY 画面の表示が一部変わります。 ※【▼】スイッチと【▲】スイッチを同時に押すとチューナーが起動します。 ※【▲】スイッチと【CTL 1】スイッチを同時に押すとメモリー・モードに切り替わります。

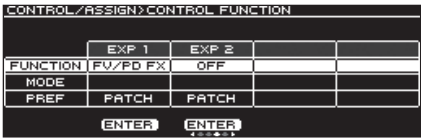
マニュアル・モード時の各スイッチの設定

マニュアル・モード時、【▼】スイッチ、【▲】スイッチ、【CTL 1】スイッチに割り当てた機能を変更するときは、次の操作をします。

1. [MENU] → 「CONTROL ASSIGN」→ 「CONTROL FUNCTION」を選びます。



2. PAGE [◀] [▶] ボタンで、最終ページに移動します。

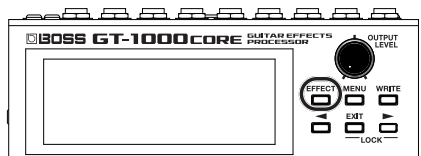


3. [1] ~ [2] つまみで、パラメーターの選択や設定値を変更します。

ベース・ギターで GT-1000CORE を使う

ベース・ギターを使う場合は、ベース・モードをオンにしてください。

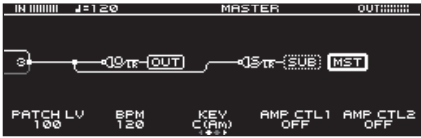
1. [EFFECT] ボタンを押します。



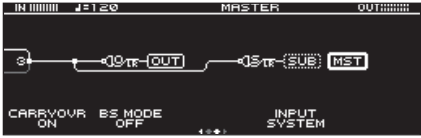
エディット画面（エフェクト・チェーン）が表示されます。



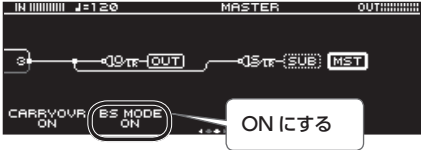
2. [SELECT] つまみを回して、「MST」を選びます。



3. PAGE [◀] [▶] ボタンで、最終ページに移動します。



4. [2] (BS MODE) つまみを回して、「ON」にします。

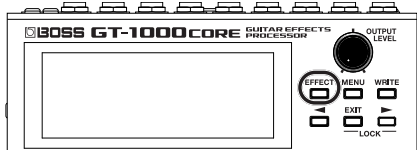


エディット編：エフェクト

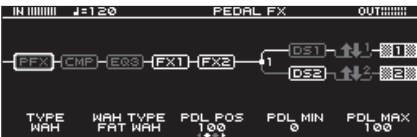
エフェクト・エディットの基本操作

エディット画面では、GT-1000CORE に搭載されているすべてのエフェクトや、出力、センド／リターンなどのブロック配列（エフェクト・チェーン）が表示されます。エフェクト・チェーンから、エディットしたいブロックを選んでエディットすることができます。

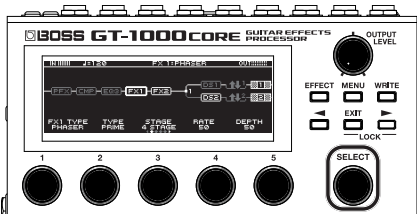
1. [EFFECT] ボタンを押します。



エディット画面（エフェクト・チェーン）が表示されます。



2. [SELECT] つまみを回して、エディットするブロックを選びます。



選ばれているブロックは太枠で囲まれています。

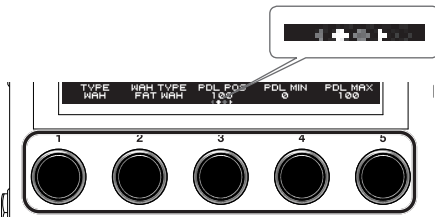


※ [SELECT] つまみを押すと、選ばれているエフェクトのオン／オフを切り替えることができます。オフになっているエフェクトは、グレーで表示されています。オンになると白で表示されます。

オフ オン



3. [1] ～ [5] つまみで、画面下部に表示されているパラメーターを調節します。



PAGE [◀] [▶] ボタンでエディットするパラメーターを切り替えます。現在のページが画面下部中央に表示されます。

※ つまみを押しながら回すと値を大きく変えることができます。
※ エフェクトによって、パラメーターの数やページ数が異なります。

すべてのパラメーターを確認しながらエディットする

エディット画面から [SELECT] つまみを長押しすると、選んでいるブロックの全パラメーターがリスト表示されます。リストから各パラメーターをエディットすることができます。

ON					FX 1: PHASER					SEL: OFF/ON				
FX1 TYPE	TYPE	STAGE	RATE	DEPTH	PHASER	PRIME	4 STAGE	50	50					
RESO	MANUAL	WAVEFORM	STEP	BI-PHASE										
0	50	TRI	OFF	OFF										
SEPARATE	LO DAMP	HI DAMP	LO CUT	HI CUT										
0	-50	-50	FLAT	FLAT										

1. [SELECT] つまみを回して設定項目を選びます。

選択項目が縦に移動します。

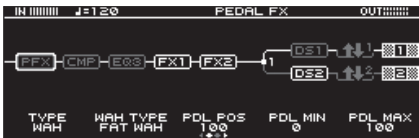
2. [1] ～ [5] つまみを回して、画面に表示されているパラメーターの値を調節します。

PAGE [◀] [▶] ボタンで、パラメーターのリストを切り替えます。

ON					FX 1: PHASER					SEL: OFF/ON				
E. LEVEL	DIR MIX													
100	0													

エフェクトの配置

エフェクトや、出力、センド／リターンなどのブロックの配置を移動させることにより、エフェクト順番を入れ替えたり、並列に配置したり、自由自在に配置することができます。



エフェクト等の配置を変更する

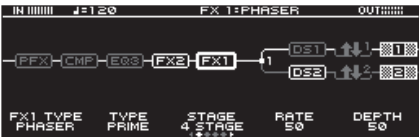
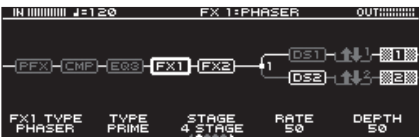
1. [EFFECT] ボタンを押します。

エフェクト・チェーンが表示されます。

2. [SELECT] つまみで、移動したいブロックを選びます。

3. [SELECT] つまみを押しながら左右に回します。

選ばれたブロックが左右に移動します。



パッチ切り替え時の音切れを防ぐ

GT-1000CORE には、新方式の高速パッチ切り替えシステムが搭載されており、無音時間の少ない切り替えができます。パッチごとに自動で最速の切り替えをしており、音切れのない切り替えも可能です。

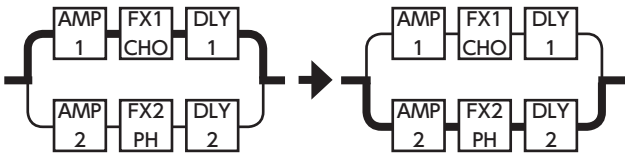
音切れを防ぐヒント

切り替え前後のパッチを以下のように作成すると、音切れを防ぐことができます。

- ・ チェインで、ブロック位置の変化が起きないようにする。
- ・ 複数ブロックを使用して、エフェクトを配置する
(同じブロックで TYPE を変更しない)。
- ・ 並列処理を使用してチャンネルを切り替える。

例：

コーラスと、深めのディレイを使ったクリーン・サウンドから、フェイザーと、浅めのディレイを使ったクランチ・サウンドを使ったクランチ・サウンドに切り替える。

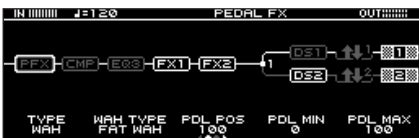


切り替え前と切り替え後の両方のパッチで、同じチェーンを使用します。切り替え前に使うエフェクトのセッティングと、切り替え後に使うエフェクトのセッティングを並列に配置します。

STOMPBOX を使う

各エフェクトのお気に入りのセッティングを **[STOMPBOX]** として保存しておくことができます。コンパクト・ペダルを並べる感覚で選んで音作りができます。STOMPBOX のデータは、全パッチで共通になっており、同じ STOMPBOX を使用している全パッチを一括でエディットすることができます。

1. **[EFFECT]** ボタンを押します。
2. **[SELECT]** つまみで、エディットするエフェクトを選びます。



3. PAGE **[◀ ▶]** ボタンで、最終ページに移動します。



4. **[5]** つまみを押します。
STOMPBOX 選択ウィンドウが表示されます。

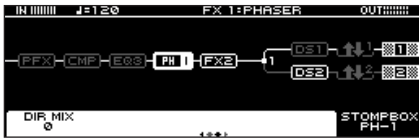
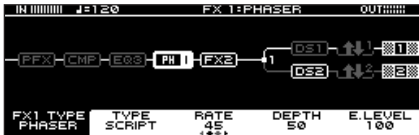


5. **[SELECT]** つまみを回して、STOMPBOX のタイプを選びます。
6. **[SELECT]** つまみを押します。

STOMPBOX を編集する

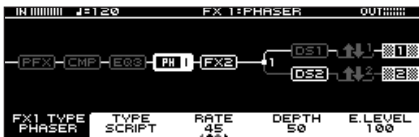
1. **[1] ~ [5]** つまみを回して、画面に表示されているパラメーターの値を調節します。

PAGE **[◀ ▶]** ボタンでパラメーターのリストを切り替えます。

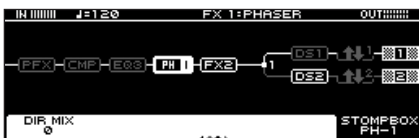


STOMPBOX の設定をパッチに読み出す

1. **[EFFECT]** ボタンを押します。
2. **[SELECT]** つまみで、エディットするエフェクトを選びます。



3. PAGE **[◀ ▶]** ボタンで、最終ページに移動します。

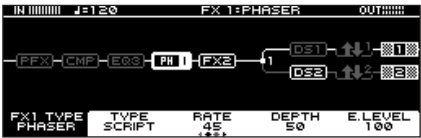


4. **[5]** つまみを押します。
STOMPBOX 選択ウィンドウが表示されます。
5. **[SELECT]** つまみを回して、STOMPBOX のタイプを選びます。
6. **[5]** つまみ (STOMPBOX COPY) を押します。

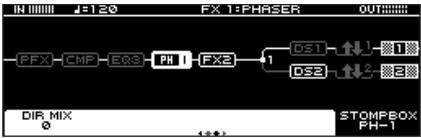
STOMPBOX の内容がパッチに呼び出されます。
STOMPBOX の内容を変更することなく、パッチのエディットができます。

パッチの設定を STOMPBOX に書き込む

- 1. [EFFECT] ボタンを押します。
- 2. [SELECT] つまみで、保存するエフェクトを選びます。



- 3. PAGE [◀] [▶] ボタンで、最終ページに移動します。



- 4. [5] つまみを押します。
STOMPBOX 選択ウィンドウが表示されます。



- 5. [4] つまみ (WRITE TO STOMPBOX) を押します。



- 6. [1] つまみを回して書き込む STOMPBOX を選びます。
- 7. [3] ~ [5] つまみと [SELECT] つまみで、名前を入力します。
[SELECT] つまみを動かすと、名前のカーソルを動かすことができます。

参照

名前の付けかたについて、詳しくは「名前を付けるには?」(P.9)をご覧ください。

パッチの保存

作ったパッチを保存したい場合は、以下の手順でユーザー・パッチに保存してください。パッチを保存しないと、電源を切ったり、パッチを切り替えたりしたときにエディットした内容が失われます。

- 1. [WRITE] ボタンを押します。



- 2. [1] つまみを押して「WRITE」(PATCH WRITE) を選びます。



- 3. [1] つまみで、保存先 (U001 ~ U250) を選びます。
[3] ~ [5] つまみと、[SELECT] つまみで、名前を変更することができます。

名前を付けるには?

[SELECT] つまみでカーソルを移動して、[5] つまみで文字を変更することで、パッチ名を変更することができます。

操作子	動作
[3] つまみを回す	文字種選択
[3] つまみを押す	一文字削除 (デリート)
[4] つまみを回す	小文字・大文字
[4] つまみを押す	一文字挿入 (インサート)
[5] つまみを回す	文字の変更
[SELECT] つまみを回す	カーソルの移動

- 4. もう一度 [WRITE] ボタンを押します。



パッチが書き込まれます。

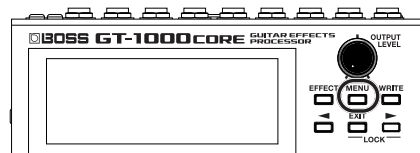
エディット編：MENU

MENU の基本操作

GT-1000CORE 全体で共通の設定（システム・パラメーター）をします。

各パラメーターについて、詳しくは『GT-1000CORE パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

1. [MENU] ボタンを押します。



※ PAGE [◀] [▶] ボタンで、さらに項目を表示することができます。

2. [1] ～ [5] つまみを押して、設定したい項目を選びます。

サブメニューが表示されます。



3. さらに [1] ～ [5] つまみを押して、設定したい項目を選びます。

4. [1] ～ [5] つまみや [SELECT] つまみで、パラメーターの選択や設定値を変更します。

※ パラメーターの選択方法や、設定値の変更方法は、項目ごとに異なります。詳しくは『GT-1000CORE パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

[1] ～ [5] つまみに好みのパラメーターを割り当てる

プレイ画面（P.5）が表示されているときに、[1] ～ [5] つまみで操作するパラメーターを割り当てます。

1. [MENU] → [HARDWARE SETTING] → [KNOB] を選びます。



2. [1] ～ [5] つまみで、各つまみに割り当てるパラメーターを設定します。



3. [EXIT] ボタンを数回押して、プレイ画面に戻ります。

ディスプレイのコントラスト（明るさ）を調節する

ディスプレイの明るさを調節することができます。

1. [MENU] → [HARDWARE SETTING] → [OTHER] を選びます。



2. [2] つまみで、コントラストを調節します。



工場出荷時の設定に戻す (ファクトリー・リセット)

GT-1000CORE の設定を工場出荷時の設定に戻すことを「**ファクトリー・リセット**」といいます。

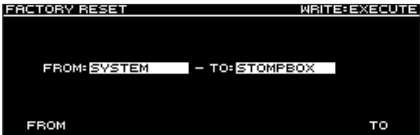
すべての設定を工場出荷時の設定に戻すことができますが、工場出荷時の設定に戻したい項目を指定することもできます。

※「**ファクトリー・リセット**」を実行すると、お客様が設定した設定は失われます。必要なデータは専用ソフトウェアでパソコンなどに保存してください。

1. [MENU] → [FACTORY RESET] を選びます。



2. [1]、[5] つまみで、ファクトリー・リセットの範囲を指定します。



つまみ	パラメーター	設定値	説明
[1] [5]	FROM TO	SYSTEM	システム・パラメーターの設定内容
		U001 ~ U250	パッチ・ナンバー U001 ~ U250 の設定内容
		STOMPBOX	STOMPBOX の設定内容

3. [WRITE] ボタンを押します。



ファクトリー・リセットを実行するときは、**[5]** ボタンを押します。



ファクトリー・リセットをやめるときは、**[4]** ボタンを押します。
ファクトリー・リセットが終了すると、プレイ画面に戻ります。

メトロノームを使う

1. [MENU] → [METRONOME] を選びます。

[METRONOME] はメニューの 2 ページ目にあります。
PAGE **[◀ ▶]** ボタンで 2 ページ目を表示させます。

メトロノーム表示



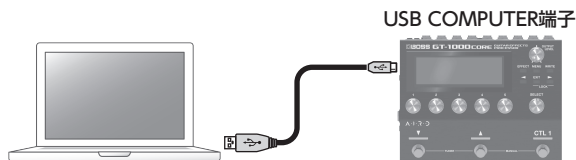
メトロノームの設定

ディスプレイ下の **[1] ~ [5]** つまみでメトロノームの設定をします。

パラメーター		設定値	説明
[1]	EFFECT TEMPO	--	[1] つまみを押すと、メトロノームの BPM をマスター BPM の値に合わせることができます。
[2]	BPM	20 ～ 250	テンポを設定します。
[3]	BEAT	1/1 ～ 8/1、1/2 ～ 8/2、1/4 ～ 8/4、1/8 ～ 8/8	拍子を設定します。
[4]	OFF/ON	OFF、ON	メトロノームをオン／オフします。
[5]	LEVEL	0 ～ 100	メトロノームの音量を設定します。

パソコンに接続する

GT-1000CORE を USB 経由でパソコンと接続すると、以下のことができます。



- パソコンとの間でデジタル・オーディオ信号を送受信
- 専用ソフトウェアを使って、パソコン上でパッチの編集や管理、『GT-1000CORE パラメーター・ガイド』（PDF）の表示
- 専用 Web サイト BOSS TONE CENTRAL からパッチをダウンロード
➡ <http://bosstonecentral.com/>

※ 充電専用のマイクロ USB ケーブルは使用しないでください。
データ通信ができません。

USB ドライバーのインストール

パソコンに接続するには、USB ドライバーをインストールする必要があります。

USB ドライバーは、ボスのホームページからダウンロードしてください。

USB 接続をする前に、専用ドライバーをインストールしてください。
詳しくは、ダウンロードしたファイルにある Readme.htm をお読みください。

➡ <https://www.boss.info/jp/support/>

ドライバーは、ご使用の環境によってインストールするプログラムや手順が異なりますので、ダウンロードしたファイルにある Readme.htm をよく読んでうえでお使いください。

オーディオ・インターフェースとして使う

GT-1000CORE の音をパソコンに録音したり、パソコンの音を GT-1000CORE の OUTPUT 端子から出力したりすることができます。

※ USB 接続時のオーディオ信号の流れと設定方法について、詳しくは『GT-1000CORE パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

※ 各ソフトウェアの入力元の切り替えかたは、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

GT-1000CORE 専用ソフトウェアを使う

専用ソフトウェアは、ボスのホームページからダウンロードしてください。使いかたの詳細については、ダウンロードしたファイルにある Readme.htm をご覧ください。

➡ <https://www.boss.info/jp/support/>

専用ソフトウェアでは以下のことができます。

- ダウンロード・サイト、BOSS TONE CENTRAL から、パッチを簡単に本体にダウンロードできます。
- パッチの設定を編集できます。
- パッチにパッチ名を付けることができます。
- パッチの順番を並べ替えたり、入れ替えたりすることができます。
- パッチと本体の設定をバックアップしたり、バックアップした設定に戻したりすることができます。
- 『GT-1000CORE パラメーター・ガイド』（PDF）を表示することができます。

外部 MIDI 機器を接続する

GT-1000CORE では、MIDI を使って次の操作をすることができます。

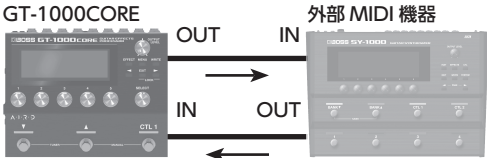
GT-1000CORE からの操作

操作	説明
プログラム・チェンジ情報の出力	GT-1000CORE でパッチを選ぶと同時に、PATCH MIDI で設定したプログラム・チェンジ情報が送信されます。外部 MIDI 機器は受信したプログラム・チェンジ情報に対応したセッティングに切り替わります。
コントロール・チェンジ情報の出力	本体のフットスイッチや、CTL 2, 3/EXP1、CTL 4, 5/EXP2 端子に接続したフットスイッチやエクスプレッション・ペダルの操作情報をコントロール・チェンジ情報として出力します。外部 MIDI 機器のパラメーター操作などに利用できます。

外部 MIDI 機器からの操作

操作	説明
パッチ・ナンバーの切り替え	外部 MIDI 機器からのプログラム・チェンジ情報に対応して、GT-1000CORE のパッチが同時に切り替わります。
コントロール・チェンジ情報の受信	コントロール・チェンジ情報を受信して、指定したパラメーターを演奏中にコントロールすることができます。
データの受信	他の GT-1000CORE から送信されたデータや、MIDI シーケンサーに保存したデータを受信します。

接続例



※ 接続には TRS/MIDI ケーブル（BMIDI-5-35：別売）をご使用ください。

設定方法

1. [MENU] → [MIDI] → [MIDI SETTING] を選びます。



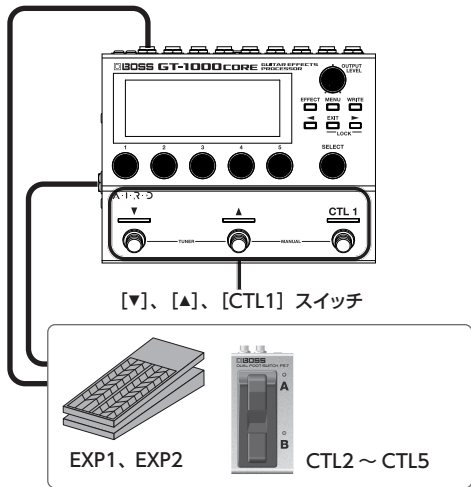
2. パラメーターつまみで、各パラメーターの値を設定します。

MIDI>MIDI SETTING				
RX CH	OMNI MODE	TX CH	DEVICE ID	
Ch.1	OFF	RX	17	
MIDI THRU	USB THRU	SYNC CLK	CLK OUT	MAP SEL
OFF	OFF	INTERNAL	OFF	PROG
▼ CC#	▲ CC#	CTL1 CC#		
OFF	OFF	OFF		

MIDI について、詳しくは『GT-1000CORE パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

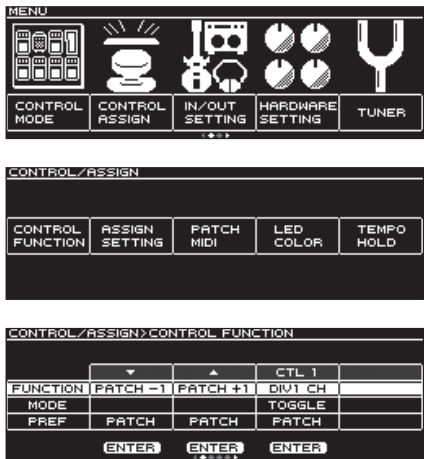
フットスイッチ、エクスプレッション・ペダルの設定

トップ・パネルの [▼]、[▲]、[CTL1] スイッチと、リア・パネルの CTL2, 3/EXP1 端子、サイド・パネルにある CTL4, 5/EXP2 端子に接続するエクスプレッション・ペダルやフットスイッチ (P.15) には、さまざまな機能を割り当てることができます。

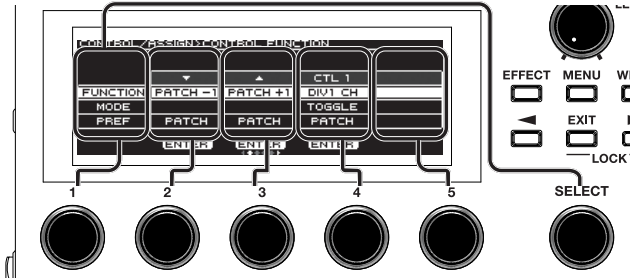


機能を設定する

1. [MENU] → [CONTROL ASSIGN] → [CONTROL FUNCTION] を選びます。



2. [SELECT] つまみ、または [1] つまみを回して、設定項目を選びます。
選択項目が縦に移動します。



選んだ項目の設定が変更可能になります。

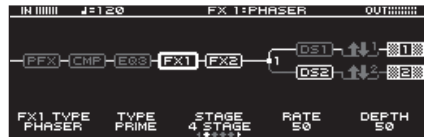
3. [2] ~ [5] つまみを回して、各スイッチの選択項目の設定値を変更します。

※ フットスイッチ、エクスプレッション・ペダルの機能は、パッチごとに設定する必要がありますが、PREF (PREFERENCE) を SYSTEM に設定すると、すべてのパッチで共通の機能として使うことができます。

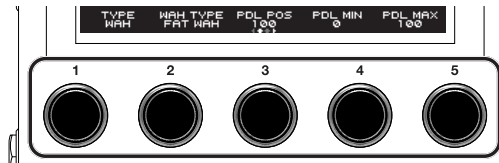
エフェクト・エディット画面からアサインを設定する (クイック・アサイン)

エフェクトのエディット画面 (P.7) で、エフェクトのパラメーターを選んで、パラメーターを好みのスイッチにアサインすることができます。

1. [EFFECT] ボタンを押します。



2. [SELECT] つまみを回して、エディットするブロックを選びます。
3. アサインを設定したいパラメーターに対応する [1] ~ [5] つまみを長押しします。



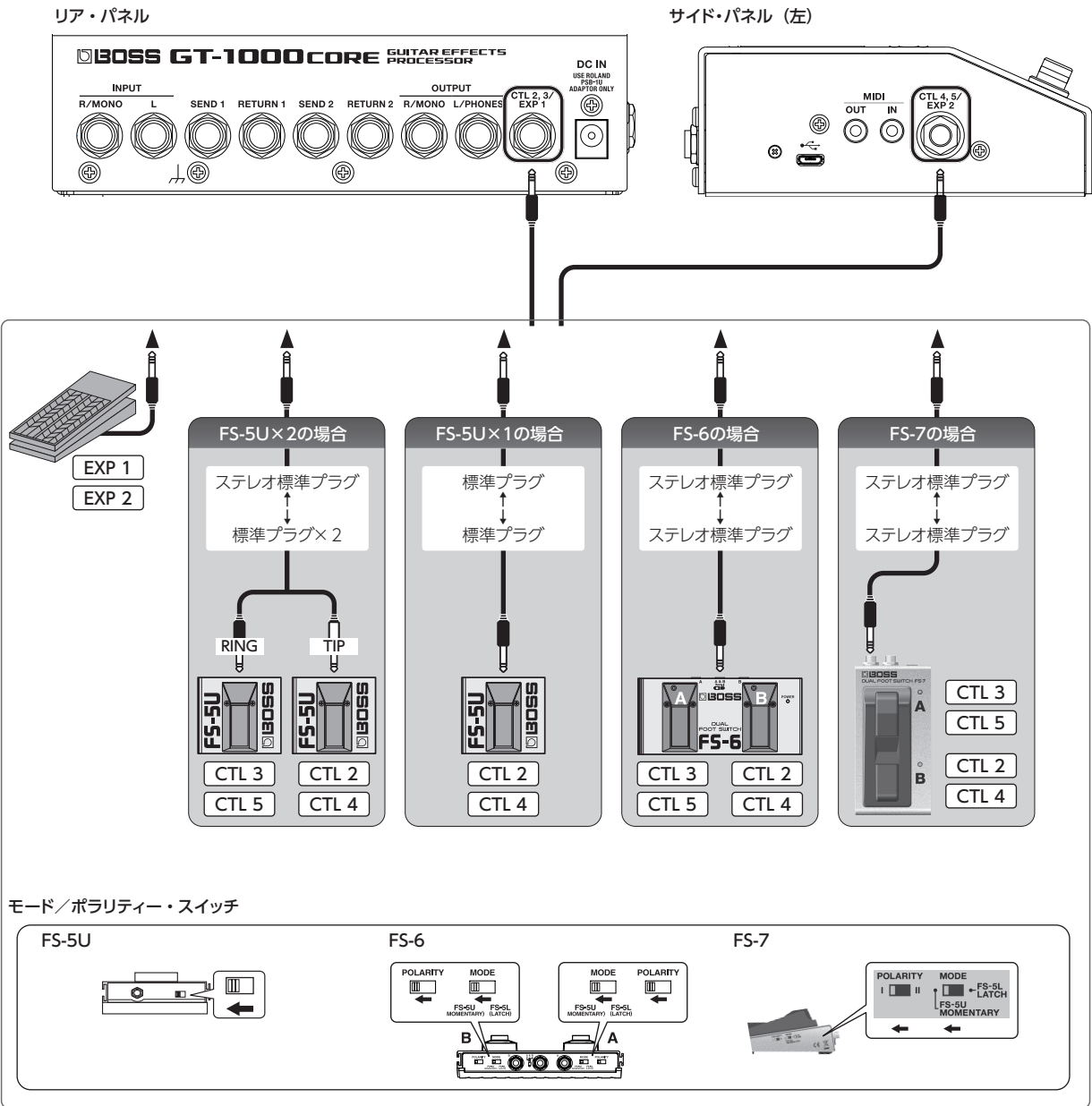
アサイン・マトリックス・セッティング画面が表示されます。

CONTROL/ASSIGN>ASSIGN MATRIX				
NUM	SW	TARGET	MIN	MAX
1	0	FX1:PHASER RATE	0	100
2	0	DIST 1 ON/OFF	OFF	ON
3	0	DIST 1 ON/OFF	OFF	ON
4	0	DIST 1 ON/OFF	OFF	ON
5	0	DIST 1 ON/OFF	OFF	ON

※ アサイン・マトリックス・セッティング画面は、パラメーター全体のリスト画面 (P.7) からでも同様の手順で表示されます。また、[MENU] → [CONTROL ASSIGN] → [ASSIGN SETTING] を選んでも表示されます。

4. [SELECT] つまみ、または [1] つまみを押して、SW を ON にします。
5. [2] ~ [5] つまみを回して、パラメーターを設定します。
必要に応じて PAGE [◀] [▶] ボタンで設定項目のページを切り替えてください。
SOURCE で、操作するペダルや MIDI メッセージなどを設定します。

外部ペダルの接続について



ルーパー

最大 38 秒まで（モノ）の演奏内容を録音し、その内容を繰り返し再生させることができます。繰り返し再生に合わせて、別の演奏を重ねて録音（オーバーダビング）することもできます。
録音した内容をバックに演奏することができます。

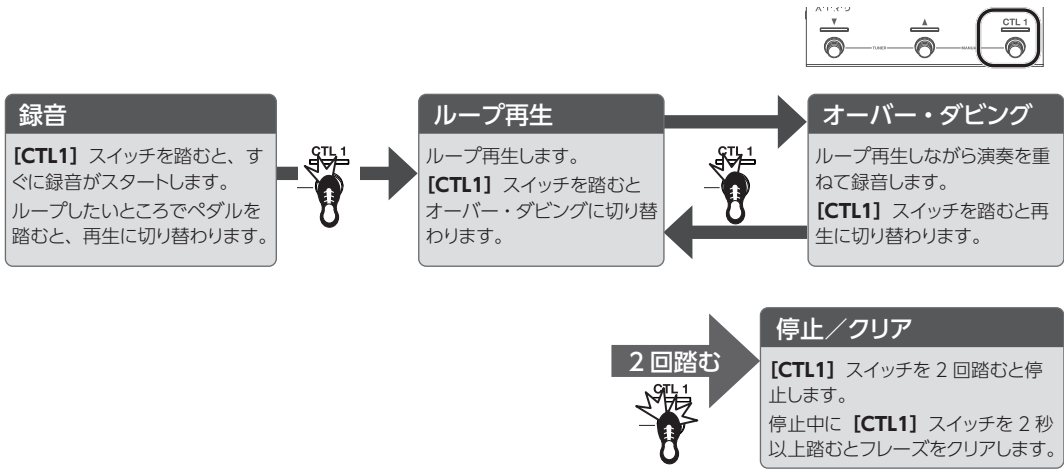
ルーパー機能をスイッチにアサインする

ルーパーを使うためには、あらかじめルーパーの録音、再生、オーバー・ダビング機能をお好みのスイッチにアサインしておく必要があります。ここでは、本体の【CTL1】スイッチを使って、ルーパーを操作する例を紹介します。

- 1. ルーパーを使いたいパッチを選びます。
- 2. 【MENU】 → 【CONTROL ASSIGN】 → 【CONTROL FUNCTION】を選びます。
- 3. 【CTL 1】のFUNCTIONを【LOOPER】に設定します。

メモ

- 工場出荷時に、プリセット・パッチ P246 ～ P250、ユーザー・パッチ U246 ～ U250 は上記のとおり設定されています。



ループ再生レベルの設定

再生レベルを 100（初期値）に設定すると、演奏している音量とループ再生の音量が同じになります。
再生レベルを 100 よりも小さい値に設定すると、演奏している音量よりも小さな音量で再生されます。これにより、録音を重ねていったときに、ループ再生音によって演奏している音が埋もれるのを防ぐことができます。

- 1. 【EFFECT】 ボタンを押します。
- 2. 【SELECT】 つまみを回して、LOOPER を選びます。
- 3. 【1】 つまみを回して、【LEVEL】の値を設定します。

スイッチの色

色	状態
赤	録音
黄	オーバーダビング
緑	再生
緑(点滅)	停止（フレーズあり）
青	停止（フレーズなし）

メモ

- 録音時間は最大 38 秒（モノ）です。ステレオ・モードでは最大 19 秒です。
- 録音した内容は、ルーパーを OFF にしたり、電源を切ったりすると失われます。

主な仕様

サンプリング周波数	96kHz
AD、DA 変換	32 ビット
内部演算	32 ビット浮動小数点
メモリー	250 (ユーザー) +250 (プリセット)
フレーズ・ループ	38 秒 (モノ) 19 秒 (ステレオ)
チューナー内部検出精度	± 0.1cent
規定入力レベル	INPUT L、R/MONO : -10dBu
	RETURN1、RETURN2 : -10dBu
最大入力レベル	INPUT L、R/MONO : +12dBu
	RETURN 1、RETURN 2 : +12dBu
入力インピーダンス	INPUT L、R/MONO : 2MΩ
	RETURN 1、RETURN 2 : 2MΩ
規定出力レベル	OUTPUT L/PHONES、R/MONO : -10dBu
	SEND 1、SEND 2 : -10dBu
最大出力レベル	OUTPUT L/PHONES、R/MONO : +12dBu
	SEND 1、SEND 2 : +12dBu
出力インピーダンス	OUTPUT L/PHONES、R/MONO : 44 Ω
	SEND 1、SEND 2 : 1k Ω
推奨負荷インピーダンス	OUTPUT L/PHONES、R/MONO : 10k Ω以上 (ヘッドホン接続時 : 44 Ω以上)
	SEND 1、SEND 2 : 10k Ω以上
コントロール	[▼] スイッチ、 [▲] スイッチ、 [CTL 1] スイッチ [EFFECT] ボタン、 [MENU] ボタン、 [EXIT] ボタン、 [WRITE] ボタン、 [PAGE] ボタン (× 2) [1] ~ [5] つまみ、 [SELECT] つまみ、 [OUTPUT LEVEL] つまみ
ディスプレイ	グラフィック LCD 256 × 80 ドット
インジケーター	▲ インジケーター、▼ インジケーター、CTL 1 インジケーター
接続端子	INPUT (L/MONO、R)、OUTPUT (R/MONO) 端子 : 標準タイプ
	OUTPUT (L/PHONES) 端子 : TRS 標準タイプ
	CTL 2, 3/EXP 1、CTL 4, 5/EXP 2 端子 : TRS 標準タイプ
	MIDI (IN、OUT) 端子 : ステレオ・ミニ・タイプ
	USB COMPUTER  端子 : USB マイクロ B タイプ
	DC IN 端子

電源	AC アダプター
消費電流	670mA
オフ・モード (自動的に電源が切れたとき) の消費電力	0.0W
外形寸法	173 (幅) × 135 (奥行) × 63 (高さ) mm (ゴム足を除く)
	173 (幅) × 135 (奥行) × 65 (高さ) mm (ゴム足を含む)
質量	920g
付属品	AC アダプター、取扱説明書、 【安全上のご注意】 チラシ、ゴム足× 4、保証書、ローランド ユーザー登録カード
別売品	フットスイッチ : FS-5U、デュアル・フットスイッチ : FS-6、FS-7 エクスプレッション・ペダル : FV-500H、FV-500L、EV-30、Roland EV-5 MIDI/TRS コネクティング・ケーブル : BMIDI-5-35

- ※ 0dBu = 0.775Vrms
- ※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

安全上のご注意

警告

- AUTO OFF 機能について

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (AUTO OFF 機能)。自動的に電源が切れないようにするには、AUTO OFF 機能を解除してください (P.3)。


- 付属の AC アダプターを AC100V で使用する

AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。


- 付属の電源コードを使用する

電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。



注意

- 小さな部品はお子様の手の届かないところに置く

下記の部品はお子様が誤って飲み込んだりすることのないよう手の届かないところへ保管してください。



・ 付属品

ゴム足 (P.2)
- 接地端子の取り扱いに注意する

接地端子ネジは、お子様が誤って飲み込んだりすることのないよう取りはずした状態で放置しないでください。再度ネジを取り付ける際は、ゆるんではずれないように確実に取り付けてください。



使用上のご注意

電源について

- ・AC アダプターは、インジケーターのある面が上になるように設置してください。AC アダプターをコンセントに接続すると、インジケーターが点灯します。

設置について

- ・設置条件（設置面の材質、温度など）によっては、本機のゴム足が設置した台などの表面を変色または変質させることがあります。

修理について

- ・修理を依頼されるときは、事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記憶内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。

- ・当社では、本機の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとでも、故障箇所によっては修理可能場合がありますので、お買い上げ店、または当社サポート窓口にご相談ください。

その他の注意について

- ・記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はバックアップしておいてください。
- ・失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- ・ディスプレイを強く押したり、叩いたりしないでください。
- ・エクспレッション・ペダルは、必ず指定のものをお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。
- ・抵抗入りの接続ケーブルは使用しないでください。

知的財産権について

- ・第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、実演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- ・第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。
- ・Roland、BOSS は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- ・ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標およびソフトウェアです。
- ・本製品には、イーソル株式会社のソフトウェアプラットフォーム「eParts™」が搭載されています。
- ・本製品は、T-Engine フォーラム（www.tron.org）の T-License 2.0 に基づき μ T-Kernel ソースコードを利用しています。
- ・文中記載の会社名および製品名などは、各社の登録商標または商標です。